

海外安全対策情報（2016年10月～12月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

昨年3月の前知事の汚職容疑による逮捕に続き、州政府幹部の解任等の頻繁な人事異動が進められたが、昨年9月には知事選が平穏に行われ新政府が発足した。当地は政治的には安定しており、現在のところ治安情勢に悪影響を及ぼすような反政府勢力等の動きは特段見られない。8月に当地市裁判所がイスラム教経典コーランの解説書籍に関し、同書籍を過激主義的資料と認定し、当地に居住するイスラム教信者が反発する状況が生じたが、その後、州裁判所が市裁判所の認定を破棄し、問題は収束した。

他方、当地ではサハリン州が北方領土を事実上「管轄」していることから、北方領土問題に対し、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年2月7日（我が国では北方領土の日）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。平成27年については、「北方領土の日」に集会は行われなかったものの、11月16日、同月18日に当館建物前等において小規模な抗議集会が行われ、平成28年については、2月11日に当館建物前で北方領土返還反対団体による小規模な抗議集会が行われており、今後も引き続き注意を要する。また、昨年、当地では、第二次大戦終了70周年に関連し、9月2日前後には軍事パレードや「日本軍国主義からのサハリン南部の解放」をテーマに種々の行事が実施され、サハリン州政府主催の国際学術会議においては領土問題に関する対日批判がなされたものの、反日的な集会等の開催は見られなかった。本年は、第二次大戦終了記念日に関しては、平穏であったと見受けられた。

なお、当地では現在までのところ、具体的なテロ情報はないものの、各国にてテロ事件が発生している情勢に鑑みれば、駅、空港等不特定多数の者が集まる場所を訪問する際は、周囲の状況に注意を払う等留意の必要がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 一般的治安情勢に関しては、サハリン州の各地において殺人のほか、高齢者や女性などの弱者を狙った路上強盗、住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者も含む女性への婦女暴行、デゾモルヒネ、大麻等の薬物の違法所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多く発生しているが、金品の強奪を目的としたものも発生している。本年においては5月及び8月に、当地を旅行中の邦人が荷物から数分、目を離した隙に現金、旅券等が入ったバックを盗まれる事案、夜間、飲食店で飲酒後、ベンチで休んでいる隙に、現金、携帯電話等を盗まれる事案が発生しており、貴重品の管理及び夜間の外出には注意が必要である。また、過去には当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも発生してお

り、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

(2) 治安当局の発表によれば、2015年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は11,270件であり、2014年の11,509件と比べ、239件と僅かに減少したものの、以下の内訳にもあるとおり、2015年は前年と比べ、殺人、粗暴行為等人の生命に直接関わるような凶悪事件の登録件数が増加しているほか、薬物違法流通についても多数発生している状況にある。また、2013年2月には、ユジノサハリンスク市内に所在する教会に武装した男1名が侵入して銃を乱射し、2名が死亡、6名が負傷する事件が発生しており、これらの犯罪は在留邦人の生活安全上の直接的な脅威ともなりうるものであり、引き続き当地治安情勢は予断を許さない状況にあると言える。

(3) 2015年の犯罪の主な内訳（括弧内は、2014年を100%とした場合）

- ア 殺人及び殺人未遂：82件（110%）
- イ 重度傷害：194件（86.6%）
- ウ 強姦及び強姦未遂：12件（63.2%）
- エ 強盗：16件（43.2%）
- オ 略奪：259件（75.3%）
- カ 窃盗：4,343件（94.1%）
- キ 詐欺：856件（139.6%）
- ク 粗暴行為：11件（137.5%）
- ケ 薬物違法流通：1,095件（89.6%）

(4) 邦人被害事案

本年8月に、当地を旅行中の邦人が、夜間、ユジノサハリンスク市内に所在の飲食店で飲酒後、酔いを醒ますため、チェーホフセンター近くの遊歩道に設置のベンチで休憩していたところ、所持していた現金、携帯電話、デジタルカメラを盗まれる事案が発生している。

(5) 邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）

ア 強盗

本年10月から12月の間、ティモフスク、ウグレゴルスク、オハで1件の強盗、強奪事件が発生しており、年配者を狙った強奪事件、貴金属店等商業施設に対する強盗事件が発生しており、ナイフ、空気銃を使って店員等を脅す事案が発生している。

（詳細は、別添事件詳細記事参照）

イ 殺人,過失致死等

本年１０月から１２月の間,ユジノサハリンスク, コルサコフ, ホルムスク, オハで殺人事件が発生し, 飲酒中に喧嘩となり, 殺人に発展した事件が多くが発生している。
(詳細は,別添事件詳細記事参照)

ウ 暴行・傷害・強姦等

本年１０月から１２月の間,ユジノサハリンスク, コルサコフ, ドリンスクにおいて暴行, 傷害事件が発生しており, 飲酒が起因する事件が発生している。
(詳細は,別添事件詳細記事参照)

エ 窃盗等

本年１０月から１２月の間,サハリン州内の各都市で多数の窃盗事件が発生している。

オ 薬物・銃器・爆発物

本年１０月から１２月の間,ユジノサハリンスク, ドリンスクにおいて, 大量の大麻及び合成麻薬等の不法所持, 販売等の事件が発生している。
(詳細は,別添事件詳細記事参照)

３ 誘拐・脅迫事件発生状況

該当案件なし

４ 日本企業の安全に係る諸問題

特になし

事件詳細記事（当地通信社等の事件記事を引用）

1 強盗

- ①〔強奪〕ティモフスク市区内務部の警察官が、搜索活動措置の過程で、商店の販売員への襲撃強盗の容疑者である43歳の男を拘束した。10月28日、犯人は、あるキオスクの出入口付近でキオスクの職員を待ち受けていたことが判った。時を待ち、彼は、彼女の首にナイフを突きつけ、彼女が所持していた1日の売上金を出すよう要求した。その後、犯人は、何処かへ姿を消した。損害は、約5万ルーブルとなった。女性は、動ずることなく、良く容疑者の顔を覚えていたことで、警察官達は、犯罪を解明、容疑者の人定を特定及びすぐに容疑者を拘束するのに役だった。。この男は、すでに幾度も警察にマークされ、犯罪行為の際、犯人は、執行猶予中だった。盗まれた現金は、押収され、刑事事件が提起された。
- ②〔強盗〕11月16日午前5時15分、ウグレゴルスク地区内務部の当直に、ニコリスクー村在住の74歳の女性から襲撃に関する通報を受けた。女性年金受給者は、マスクをした不明男性が家に押し入り、拳銃のような武器で彼女を脅し、金を要求したと通報した。直ちに、事件現場に機動捜査班が出発した。警察官は、ショックを受けた女性を安心させた。彼女は、早朝4時ころに、大きな物音で目が覚め、家の中で顔を隠し、手に拳銃と棒を持った男性を見つけた。家主は、簡単な施錠でドアをロックしていたので、ドアをたたき壊すことは、犯人には難しくなかった。武器で脅し、犯人は、金を要求し始めたが、通報者は、金を持っていなかった。おびえながら老婆は、犯人に殴らないよう頼み、彼女が年金を受取る、数日後に金を渡すことを約束した。本当に家の中に多額の現金がないことを確認し、不明者は、事件現場から姿を消した。捜査員は、直ちに犯人の搜索に着手し、間もなく、年金受給女性を襲った男の人定と住所に関する情報を受取った。追跡により、犯人は拘束され、警察署に護送された。犯人は、25歳のニコリスクー村の住民であることが判った。警察官は、彼の所持していた犯人が顔を隠したタオル及び空気銃を発見した。現在、男は拘束された。この事実に関し、刑事事件が提起された。この条項の最高刑は、7年から12年までの期間の自由剥奪刑が規定されている。
- ③〔強盗〕過ぎ去った休日に、オハにおいて、犯罪者達が、貴金属店「ゾロトエ・ルノ」に押し入った。事前の情報によると、12月9日夜、マスクをした犯人達は、仕事から家に帰る店の女性従業員を捕まえた。一晩中、（犯人達は、）彼女を自動車に監禁した。翌朝、彼らは、女性を貴金属店に連れて行き、武器で脅しながら、警報を解除するよう迫り、完全に全ての商品を盗んだ。損害額は、まだ判っていないが、損害額は、数百万ルーブルに達することは明らかだ。強盗達が乗っていた車は、

ノグリキ地区で発見された。まだ、車が誰の所有なのか伝えられていない。

2 殺人,過失致死等

- ①〔殺人〕サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課によって、前科のある65歳の地元在住の男に対し、ロシア刑法典の殺人により刑事事件が提起された。捜査によると、10月2日夜、容疑者は、店の近くで54歳の地元在住男性と会い、彼に飲みに行こうと提案した。洗剤「プシスティク」を購入し、彼らは容疑者の家に向かった。飲酒の過程で、客とアパートの家主との間で喧嘩となり、その結果、後者がナイフを手に取り、被害者の腹部を一度刺し、その後、就寝した。朝、目覚めると、容疑者は、男性が、死亡しているのを発見した。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ②〔殺人〕10月13日、コルサコフ市コルサコフ通り11のアパートの1つにおいて、暴力による死の痕跡がある47歳の地元男性住民の遺体が発見された。この事実により、サハリン州捜査委員会コルサコフ市捜査課によってロシア刑法典の殺人により刑事事件が提起された。10月12日、被害者は、殺人の前科がある46歳の知り合いの男のもとに客として、上述の住所に到着し、そこで、彼らは1日中飲酒したことが明らかとなった。飲酒によりアパートの家主に、幻覚が始まり、彼は、ナイフを手に取り、少なくとも6回、被害者の頭部と頸部を刺した。その後、容疑者は就寝した。朝、目覚めると、客の遺体を発見し、自分の衣服を脱ぎ、瓶、グラス、殺人を行ったナイフを集め、全てを袋に入れ、家の庭に運び出し、ゴミ用のコンテナに捨てた。その後、犯人は、警察に電話し、彼のアパートで遺体を発見したと通報した。現在、容疑者は拘束され、彼に対し、勾留での身柄保全処分の選択に関する問題が検討されている。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ③〔殺人〕11月20日午前11時、オハの捜査課は、オハ市エントウジヤスト通り5-1のアパートの窓下で暴力による死の痕跡のある54歳の地元在住の女性の遺体が発見されたとの通報を受けた。刑事事件が提起された。この犯罪行為の容疑により、類似の犯罪の前科がある32歳の地元在住の男が拘束された。彼に対する勾留下での身柄保全処分措置に関する問題が検討されている。捜査によると、上述の住所で2週間、5名の同僚達であるアパートの男性家主、容疑者、3名の女性は、飲酒していた。11月19日に、男性家主が所持していたピストルを見せると、客達は、アパートの壁に向け射撃し始めた。その後、この武器により、人を殺害することは可能かについて、容疑者と被害者の間で口論となった。賭け金は3000ルーブルだった。容疑者は、女性に近づき、頭を撃ち、これにより女性は、その場で亡くなった。その後、遺体は、バルコニーに運ばれ、外に投げ捨てられた。
- ④〔殺人〕12月9日、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課において、

ユジノサハリンスク市ボポビチャ通り 18A のアパートの 1 つで、頸部に刺し傷が認められる暴力による死の痕跡のある 55 歳の地元住民女性の腐敗した遺体が発見されたとの通報を受けた。刑事事件が提起された。捜査によると、被害者は、64 歳のアパートの家主の同居人だったが、ダーリニェエに居住していた。基本的には、彼が年金を受取る際に、男性の下を訪れていた。11 月中旬、後者は、ウズベキスタン出身の男と知り合い、そして、彼は、住所不定だったことから、彼の元でしばらく暮らすことを提案した。12 月 4 日、いつものように同居人男性の家を訪れた女性は、飲酒の過程で、客に彼がアパートに住んでいることについて不満を吐露し始めた。この際、彼女は、非常に卑猥な悪口を用いた。1 日中、彼らは、3 人で飲酒し、女性はこの時間中、アパートを立ち去ることを要求しつつ、容疑者を侮辱していた。侮辱に耐えかねて容疑者は、夜にとうとう、ナイフを手に取り、侮辱者の頸部を 1 回刺した。その後、彼は、更に、酒を購入し、アパートの男性家主とともに、キッチンから部屋に移動し、酒を飲み続けた。朝、目が覚めた容疑者は、着替え、アパートを立ち去った。被害者の娘が訪れ、彼女の母親が亡くなっているのを発見するまで、アパートの男性家主は、事件について、法擁護機関に通報せず、4 日間、遺体とともに、アパートで暮らした。容疑者の居場所は特定された。12 月 12 日に彼は拘束され、彼に対する勾留下での身柄保全処分措置に関する問題が検討されている。

- ⑤〔殺人〕以前、サハリン州捜査委員会報道部は、ホルムスク捜査課によって、12 月 18 日にホルムスク市マトロースト通り 6 のアパートの 1 つで、55 歳のアパートの女性家主の遺体が発見された事実に関して伝えた。遺体の法医学鑑定の実施により、頸部の圧迫による物理的窒息の結果、死亡したことが判った。ロシア刑法典第 105 条第 1 項（殺人）に規定される犯罪構成要件の兆候により、刑事事件が提起された。この犯罪行為の容疑により、36 歳の被害者の息子が拘束された。取調官の請求により、彼に対し、ホルムスク市裁判所によって、勾留下における身柄保全処分措置が選択された。

3 暴行・傷害・強姦等

- ①〔傷害〕サハリン州捜査委員会コルサコフ捜査課によって、45 歳の地元住民の男に対して刑事事件が提起された。捜査によると、11 月 10 日の深夜、容疑者は、飲酒による酩酊状態にあり、42 歳の元の同居女性の家に着し、そこで抵抗の試みを抑制し、女性の髪の毛を掴み、顔を殴った。その後、ナイフを手に取り、ナイフを彼女の顔の前で振り回し、被害者に対してセクシャルハラスメント行為を行った。刑事事件捜査が続けられている。
- ②〔傷害〕サハリン州捜査委員会ドリンスク捜査課によって、前科のあるドリンスク地区ブニコフ村在住の 15 歳の男に対して刑事事件が提起された。未成年者は、ブ

ィコフ村タルゴバヤ通り6に所在するアパートにおいて、43歳の地元住民男性に手や足で体の様々な部分を何度も殴り、彼に重大な健康被害に分類される程度の身体的な傷を負わせた。刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。

- ③〔重度傷害〕12月13日、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、ユジノサハリンスク市第1オクチャブリスカヤ通り63のアパートの1つで暴力による死の痕跡がある43歳の地元男性住民の遺体が発見されたとの通報を受けた。ユジノサハリンスクの州法医学鑑定センターの遺体登録日誌の抜粋によると、男性の死は、硬膜下血腫を伴う頭蓋損傷の結果だった。この事実により、捜査課によって、ロシア刑法典の重大な健康被害の故意の惹起より刑事事件が提起された。現在、容疑者の特定に向けた捜査活動及び捜索活動措置が行われている。

4 薬物・銃器等

- ①〔薬物〕捜索活動措置の過程で、内務局流通麻薬対策課の警察官によって、麻薬の販売及び入手が明らかにされた。流通麻薬対策課の警察官が、ドリンスク地区ソール村の31歳の男性住民が、自宅で33歳の同村住民に大量のマリファナを販売した。そして、後者は、麻薬からハシシオイルとタバコの混合麻薬を製造し、それを更に2名の村民に販売した。男性は、捜査活動実施のため、サハリン州内務局流通麻薬対策課に護送された。身体検査の結果、容疑者が所持していた、タバコの粉末状混合物及びハシシオイル9.27グラムが押収された。その後の容疑者の1人の勤務場所の捜索の過程で、作業場の中のキャビネットで、捜索員が25.1グラムのマリファナを発見した。ベレズニャク村の彼自身の物置で、流通麻薬対策課の警察官が562グラムのマリファナを押収した。刑事事件の他の関与者の家の捜査の際、警察官は、タバコの粉末状混合物及びハシシオイル0.15グラムのほか、マリファナ406.9グラムを押収した。麻薬の入手、保管及び販売の事実により、刑事事件が提起された。
- ②〔薬物〕11月18日、ロシア連邦内務省ユジノサハリンスク内務部において、地元男性住民からの通報を受けた。男性は、そのアパートの入口に恐らく受渡しのための麻薬を隠匿しようとしている若者がいると通報した。上述の住所に、パトロール局の警察官が直ちに向い、21歳の男を拘束した。彼の検査の際、警察官は、白色及び青色の粉末が入った小袋を発見した。事件現場に到着したサハリン州内務局流通麻薬対策課の警察官が、拘束者から粉末状の物質が入った小袋13個を押収した。犯罪鑑定センターの鑑定官によって、この物質が、大量に該当する519.1グラムの合成麻薬剤であることが明らかにされた。刑事事件が提起された。容疑者に対し、勾留下での身柄保全処分措置が選択された。

